

MAGAZINE FOR FRENCH BULLDOG LOVERS

ブヒ Vol. 09 OAK MOOK 253

BUHI

人生で
フレンチブルドッグに
出会えた
強運なあなたへ

こんにちは!
うちのコ自慢
みんなの愛ブヒ勢揃い!

大特集

「いのち」のこと

総 力 取 材

動物愛護、出産、障害、愛ブヒの死を乗り越える方法にいたるまで。「いのち」を知るための誌上ワークショップ

社会化を考える

「子」

犬を迎えたら充分に社会化させましょう」

これはしつけの本にも書かれているし、しつけ教室に行ってもトレーナーさんに言われる言葉。

社会化とは、成犬になってその犬が遭遇するであろうものや出来事に慣らして行くこと。人間社会や環境に順応しやすい子に育てるためのプログラムである。

ひとくちに社会化と言っても、「何に」「どの程度」社会化させるのかよく分からないまま、いつのまにか社会化の時期が終わってしまったか、結果的に社会化不足な子になってしまったなんてことも多いのではないだろうか。

実際「何に」の部分は他の犬、子供、老若男女、赤ちゃん、ベビーカー、花火、雷等々リストにすると膨大な数になるし、「どの程度」に関しては、犬の気質がシャイで恐がりな子が、快活で物怖じしないタイプかによっても異なる（物怖じしない子の倍以上の経験を積ませることが、恐がりな子には必要な時もある）。

それでもたくさんさんの経験をさせて損はないので、できる限りひとつのことに對してより多くの経験をさせる。

しかもそれを「生後4、5ヶ月ぐらいまでに済ませましょう！」と言われても、「無理だ！」って思いませんか？

私は正直、無理だと思います。

成犬になって遭遇するあらゆるものについても同様。ずっと同じ環境で生活するとは限らないし、仕事もあるから一日中大の世話ばかりもして貰えない。どんなに社会化させても結局、うまく社会化できなかった事は絶対出てくる。成犬になってから子犬の頃に経験したことがない出来事や物に遭遇し、警戒して吠えたり恐がって逃げようとするのだってあるだろう。

大切なのは、全てのものや出来事に対して社会化させようと、やみくもに意味なく暴走することではない。将来、うまく社会化できなかったことに遭遇した時、犬たちがどのように対処すればいいのか、という行動の流れ（脳からの指令の流れ）を作っておけることなのだ。

そのためには、どのような状況でも飼い主からのコマンドや声が聞けて、適切な行動が落ちて取れるようにトレーニングしてゆくことが重要だと思っ。

「子犬のうち社会化させて」と言われるあまりに陥りやすい、間違っただ

社会化というのか、逆効果と思える社会化の例を挙げてみよう。

お散歩で会う子犬の飼い主さんの多くは、すれ違う犬たち全てにとにかく挨拶させようとしがちだ。所がまわらず子犬がリードを引っ張って暴走するがままに、飼い主さんも突進しながら近づいてくる。

しかし大同士のルールとして、正面から突進してくるアプローチはマナー違反なのである。大同士の世界では大きくカーブしてサイドからのアプローチが、マナーのよい挨拶の仕方とされている。

そういう文化マナーは、ノーリードになれるドッグラン等で互いに会話ボディーランゲージを学び、同時に遊び方や挨拶の仕方も学んでゆくのが理想だ。

お散歩中に会う全ての犬と挨拶をさせなくても、愛犬を他の犬たちと社会化させる方法はいくらかでもあると思う。他の犬の所へ行きたがるからと、飼い主さんが子犬の行きたい方向に任せて歩いていると、いざ行きたい方（他の犬の所）に行けなくなった時に要求吠えをするようになる子も多い。これでは社会化どころか、わがままな子に育ててしまう。

お散歩中は、「リードを引っ張らな

いでおとなしくしていることができたら、「褒美に他の犬と遊べるよ」というルールを教えることが重要。その行動を教えることで、飼い主さんからのOKが出たら遊んでもいいということも子犬は学んでゆく。だから、わがままをいつて吠えたり暴れたりしない成犬になる。


そして、どんな時でも「お座り」と「待て」が瞬時にできるようになるだけで、たとえば犬がパニックを起こしたときでも、安全に対処できるのである。

社会化でいちばん重要なのは、「色々な経験を意味なく積み・遭遇させる」のではなく、「未経験なことやものに遭遇した時、どのように対処し、どのような行動を取るべきか」を覚えておくことだろう。経験のさせ方がたいせつなのだと思う。

TRAINING

そう だ そう だ
 トレーナーの
 な お こ さ ん に
 訊いてみよう

007
 BUHI TRAINING METHOD




川野 倂子

アメリカ、カリフォルニア州にてドッグトレーナーのライセンスを取得。フランス人とアメリカ人訓練士のもとで、軍用犬、警察犬の服従訓練や、問題犬の矯正を学ぶ。現在、カワノ e-ドッグの専属ドッグトレーナー。

★株式会社カワノ e-ドッグ

☎03-3630-6725 Fax 020-4623-6423 <http://www.k-e-dog.com/>

犬の権利が認められるには、飼い主が犬に対して義務を果たす。それが「しつけ」だと「しつけ先進国」フランス流の考え方。カフェでつろぐ主と足元でゆったりと過ごす愛犬との心地よい距離感。そんな犬文化と輸入したドッグ・トレーニング・スクールです。